平成２６年度研究成果報告書　《平成２６年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	35	都道府県・指定都市名	山口	研究課題番号・校種名	２　小学校
				教科名	国語

研究課題	新学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から，新学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究 ①教育課程全体に係る課題（教育課程調査官担当） (ｱ) 単元を貫く言語活動を位置付けた「C 読むこと」の授業づくりにおいて，次の一つ又は複数を取り上げた研究 ・評価規準の設定を工夫した学習評価の改善 ・単元の展開部（いわゆる「第二次」）の指導の在り方の工夫改善 ・本や資料を目的に応じて選んで読む能力を育む指導の在り方の工夫改善 (ｲ) 子供たちが単元を貫く言語活動に取り組む中で,目的意識や必然性をもって交流するための指導の在り方に関する調査研究

学校名（児童数）	岩国市立麻里布小学校（826 人）
所在地（電話番号）	山口県岩国市山手町一丁目 7-41　（0827-21-7111）
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://www.mfe.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/

研究のキーワード

○「指導と評価の重点の明確化」
○「第二次の授業改革」
○「単元を貫く言語活動を充実させるための学校図書館の活用方法の工夫」

研究成果のポイント

○「読むこと」と「書くこと」の領域を組み合わせた複合単元の「重点取組年間計画」の作成
○付けたい力や学習内容に応じた柔軟な第二次の構想
○学校図書館司書や司書教諭との連携による「並行読書材選定システム」の確立

１　研究主題等

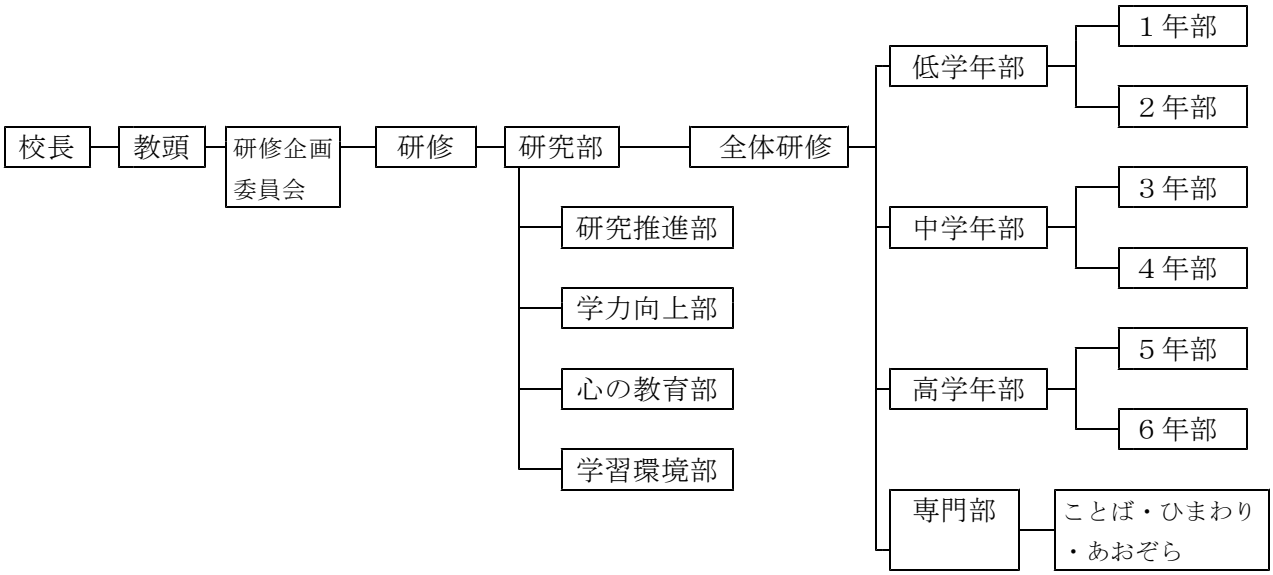
（１）研究主題

単元を貫く言語活動を通して，思考することを楽しむ子どもを育てる
～「読むこと」と「書くこと」の関連を通して～

（２）研究主題設定の理由

本校の児童はこれまでの全国学力・学習状況調査から,「複数の情報を関連付けながら読み,論理的に考えたり，適切に判断したりしながら，自分の考えを書くこと」に課題がみられる。これを克服するためには，授業の中で子どもたちが主体的に「思考・判断・表現」を往還的に展開するような授業構想や単元構想の工夫・改善が必要であると思われる。そこで今年度は，単元を貫く言語活動を位置付けた授業を通して,「読むこと」と「書くこと」との関連を図る授業改善に取り組むことにした。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組

平成26年度	３月　研究の方向性の確認・理論研究 ４月　連絡協議会への参加 ５月　研究全体構想の確立(研究組織・研究年間計画) 「マトリックス型年間指導計画」及び「重点取組年間計画」の作成について 指導案の形式について ６月　授業づくり研修会「授業公開６年」（水戸部調査官による理論研修会） ７月　指導案相談会（講師：水戸部調査官） ８月　「重点取組年間計画」の作成・見直し ９月　授業づくりを中心とした研究実践 １０月　指導案検討会 １１月　公開研究会に向けて各学年の実践のまとめ １２月　公開研究会「授業公開１年・４年・６年」（講演：水戸部調査官） １月　研究のまとめ ２月　連絡協議会での発表

２　研究内容及び具体的な研究活動

（１）研究内容

①指導と評価の重点の明確化

・マトリックス型年間指導計画

・重点取組年間計画の作成

②第二次の授業改革

・単元を貫く言語活動を位置付けた授業スタンダードの確立

・「読むこと」と「書くこと」の複合単元による授業づくり

・第二次の構想の工夫

③「単元を貫く言語活動を充実させるための学校図書館の活用方法の工夫」

・並行読書の推進

・読書環境の工夫

・読書意欲を喚起するための工夫

（２）具体的な研究活動

①指導と評価の重点の明確化

・「マトリックス型年間指導計画」を作成し，年間を見通し当該単元における指導事項を確認した。

・「マトリックス型年間指導計画」の中から，重点的に取り組む複合単元のみを精選し，より詳細な指導計画である「重点取組年間計画」を作成した。

②第二次の授業改革

・「単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりのスタンダード」を確立し，単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりのポイントに沿って，実践的に授業づくりに取り組んだ。

【単元を貫く言語活動を位置付けた授業づくりのポイント】

1　付けたい力を見極める
2　付けたい力に最適な「単元を貫く言語活動」を選定する
3　魅力的な課題を提示し，ゴールまで見通すことのできる学習計画表を作成する
4　第二次の構想を工夫する
5　目的意識を明確にもった交流を位置付ける
6　ねらいに応じた並行読書材を選定する
7　振り返りの充実を図る

・「読むこと」と「書くこと」の領域を組み合わせた複合単元により，双方の指導事項をより効果的に指導できるようにすることを目指した。第二次で目的に応じた読みを展開することにより，読みの精度をあげていくだけでなく，「読むこと」と「書くこと」の指導事項との関連をもたせることで「書くこと」の精度もあげながら指導事項も確実に達成できるよう，言語活動の開発を行った。

・付けたい力や学習内容に応じて，「入れ子構造」や「AB ワンセット方式」，又はこれらのよさを組み合わせたタイプなど， 柔軟に第二次の構想を工夫し，授業づくりに取り組んだ。

③「単元を貫く言語活動を充実させるための学校図書館の活用方法の工夫」

・学校図書館司書や司書教諭との連携を図りながら，並行読書材の選定をするため，「図書館連絡票」を作成した。

・学校図書館のゆるキャラを誕生させたり，季節や行事ごとに変わる展示をしたりするなど学校図書館が子供たちにとって，身近で魅力的な場所になるよう読書環境を工夫した。

・並行読書実践コーナーを設置したり，読書活動推進員や図書ボランティアの活動を充実させたりすることで子供の読書意欲の向上を目指した。

３　研究の成果と課題

（１）成果

①指導と評価の重点の明確化

・「マトリックス型年間指導計画」の作成や「重点取組年間計画」の作成により，年間を見通し，「付けたい力」「教科書教材」「言語活動」の関係を捉え，効果的に位置付けることができた。

・「読むこと」と「書くこと」の関連を図った複合単元における「重点取組年間計画」を作成し，それをもとに実践することで，それぞれの領域のねらいと「指導･学習活動･評価」が一貫したものになり，双方の指導事項が効果的に指導できた。

②第二次の授業改革

・教科書教材で身に付けた力を自分の課題解決に生かす「入れ子構造」や「ＡＢワンセット方式」で学習を進めることで，身に付いた力をすぐに実感することができ，子どもの「振り返り」の記述内容が「身に付けた力の自覚」や「単元の毎時間の学習内容のつながりを意識したもの」に変わってきた。また，主体的に学習に取り組む態度の育成にもつながった。

・目的意識をもって言語活動に取り組むことで，「読むこと」と「書くこと」の領域の指導事項を効果的に達成でき，思考力･判断力･表現力等の育成にもつながった。

・子どもの思考過程に沿って，単元を柔軟に構想することにより，「入れ子構造」や「ＡＢワンセット方式」のよさを組み合わせた形の単元構想も開発することができた。

③単元を貫く言語活動を充実させるための学校図書館の活用方法の工夫

・「図書館連絡票」の活用により，学校図書館司書や司書教諭との連携がスムーズになり，並行読書材の充実を図ることができた。

・読書環境の整備・充実により，読書意欲を高めることができた。

（２）課題

①指導と評価の重点の明確化

・教材研究の段階で教師が言語活動を試行し，付けたい力と密接に関連を持たせるように工夫することが重要である。

・単元で取り上げる指導事項を捉えた上で，毎時間の学習のねらいを明確にし，より細かな評価規準の設定を行う必要がある。

②第二次の授業改革

・自力で言語活動を遂行することが難しい児童のために，到達のための手立てを単元全体を通して具体的に用意する必要がある。

③単元を貫く言語活動を充実させるための学校図書館の活用方法の工夫

・付けたい力や言語活動に合った，並行読書材の選書については，授業者の意図する本とのずれが生じることもあり，「図書館連絡票」を改良する必要がある。

（３）指定期間終了後の取組

①「マトリックス型年間指導計画」や「重点取組年間計画」の見直し

②「読むこと」と「書くこと」のねらいを効果的に組み合わせた複合単元の開発

③ねらいに応じた並行読書材選定のための「図書館連絡票」の改良

④研究紀要の作成やホームページ等の活用による研究成果の普及